

佐伯史談

第一二号

「郷土史研究」誌
通算第一二四号

昭和五十年九月廿三日発行

佐伯史談 会

事務所 佐伯市大字稻垣字龍護寺 羽柴方

随想

京都遊記

佐伯史談会

会長 高水嘉吉

私は、去る七月の七、八、九の三日間、京都を訪れた。大本山妙心寺で、五月一日に死亡した家内の供養が行なわれるので、それに参列するため上京したのであるが、ついでに京都市内を若干探訪する機会を得たので、印象に残ったことを記して参考にしてほしい。

佐伯から池田美千代さん（城南区）は亡夫岡作氏の供養のため、また前田ゲンキさん（蛇崎区）は亡孫信一郎君の供養のため、行き共にすることになって、旅の孤独を味わねばならぬことと幸いであつた。

七日十五時三十分京都到着、先着の海福寺田中禅鑑和尚に迎えられて、一先ず花園会館に落ちつく。花園会館は花園会の経営であるが、近代的女大々な施設である。

八日、いよいよ妙心寺に詣でる。南門をくぐると左手

に勅使門がある。勅使門から北に向つて、山門、仏殿、法堂、大方丈、大庫裡の豪壮な大伽藍が一直線に並んでいる。大寺なるかなと感歎した。

新亡供養の法要は、法堂で行なわれた。今日は京都以西の新亡の供養で、およそ一千人が参会してゐた。管長梶原逸外師の焼香に続いて、遺族もそれぞれ焼香した。故人も満足したことであろう。

それから齋堂がもたれて、禪寺得意の山菜料理を馳走された。かくて妙心寺に別れを告げたが、連絡たる法統と、肅然たる宗風は、参詣する檀徒の心を淨化するである。

午後八時、私たちが、うち連れて祇園を散策し、お茶漬専門店、民芸で食事し、一日を終

本号の内容

- 藤 京都遊記（高水嘉吉）……一
- 研究 海部と徳門と佐伯（佐藤貫）……三
- 資料 藩政時代の農民（羽柴弘）……七
- 叢書 清州佐伯村お辰（佐藤徳弥）……三
- （第1次）高岡佐伯開拓團史
- 記録 赤木部落共有林（辰谷裕之）……一〇
- 隨想 佐伯風土記（山内武雄）……二二
- （赤とんぼ）の民りあげ
- 資料 年貢諸大納皆濟徳美（羽柴）……四
- 浪木、徳王家文書……一〇
- 研究 横山先生と佐伯（山本辰）……二八
- 研究 わがふるさと元田（市野瀬）……三八
- 研究 明治秋室の愛読書（羽柴弘）……三〇
- 振興記 土直具富辰神社の秋祭……三三

